編集後記

まずは今回の『浜太極』第37号を、通常の日程でお届けできなかったことをお詫び申し上げます。早くまた皆様の活動が元に戻り、そのご報告をお伝えできる日が来ることを願ってやみません。

それにしても、前回の編集後記の中で、「今年の夏は、やはり世の中はオリンピック一色で賑わいそうです」と書いてから半年が経った世界が、まさかこのような状況になっていようとは……。「フィンガー5だ」などとのんきなことを言っていた日々が、まるで夢のようです。

少なくとも今年は、もはやオリンピックどころではありませんね。いや「今年」にかぎらず、この事態が終息した先も、どうやら私たちの日常は変化せざるを得ないようです。仮に現在のCOVID-19に効く強力な治療薬やワクチンが開発されたとしても、RNA遺伝子は突然変異しやすいので、またいつ新たな型のウイルスが発生してもおかしくないでしょう。

私たちはこれから、「ウィズコロナ」あるいは「ポストコロナ」の時代を生きていかなければならないようです。

いろいろなことが変わっていきそうですが、私の想像では、先に触れたオリンピックというもの自体が、今までとはちがうものになるような気がしてなりません。むろんすぐにということではないでしょうが、巨額のお金をかけて世界中の人々を集め多種多様なスポーツを一斉に競わせるというシステムそのものが、コロナ以前のきわめて20世紀的発想ではないかと。具体的にどのように変化していくかはわかりませんが……。

もうひとつ変化しそうな予感がするのは、ガラッと話が変わりますが「お一人様」という価値観です。コロナ禍以前の近年、「お一人様も悪くない」という風潮がメディアも手伝ってこの国に広がっていたように思います。とくに若者たちには、「一人のほうが楽だから、結婚なんてめんどくさいことは考えもしない」という人が増えていたとか。

しかし、今回のコロナによる外出自粛が続く中、若い人たちの間で「オンライン婚活」が盛んになっていると、以前テレビが報じていました。こうした非常事態に遭遇してあらためて、「人間は一人では生きられない」という他者とのつながりの大切さを、若者も身に沁みて感じたのではないでしょうか。

さらに変化しそうなのは、少々抽象的ですが「距離感とスピードの関係」ではないかと思うのです。この先おそらく定着しそうな「ソーシャルディスタンス」。それを維持しつつなおかつ社会生活を実現していくためには、スピードの緩和が求められるのではないか、と。素早い動きは一定の距離を保ちづらい。このことは、太極拳を友とする私たちであれば、ピンとくるのではないでしょうか。

「意識的に緩やかなスピードで一定の距離を保ちつつ、しかも和を育み、共生する」。こう書くと、なんだかそのまま太極拳につながっていきそうな気がします。

というわけで、私たち楊名時八段錦・太極拳の仲間は、コロナ禍の先にある新しい時代にも臆することなく、引き続き太極拳で免疫力を高めながら元気に生きていきましょう！

（結城　記）

投稿先は以下の通りです。

●メール　k.hiroko@aurora.ocn.ne.jp
●郵　送　〒252-0239 相模原市中央区由野台2-7-3
●ＦＡＸ　042－758－9838
※宛名はすべて「『浜太極』編集部 久保田博子」でお願いします。

神奈川県支部ホームページ ： http//www.taiji-kana.sakura.ne.jp